

東京白楊だより

vol.47

2024.8.22

白楊ヶ丘同窓会東京支部
旧制函館中学校 函館中部高等学校
<https://kanchu.tokyo>

第47回親睦大会報告

第5回新人歓迎会報告

函・中・人

第68期 今井浩三

第80期 小滝亮太郎

同期会だより

第59期 第60期 第67期 第68期 第72期 第81期

なるほど!ザ・TUBU

放送局全国大会出場! バレーボール部全道大会進出

第48回親睦大会ご案内

新しい状況下での白楊ヶ丘同窓会の持続・発展に向けて



白楊ヶ丘同窓会東京支部長
第76期 昭和49年卒
白川正広

皆様には、日頃から白楊ヶ丘同窓会東京支部の活動へのご理解・協力をいただき、感謝申し上げます。

数年来、私たちを悩ませておりました新型コロナウイルス感染症も昨年5月に政府が「第5類感染症」に変更したことを契機に、様々な行事が元の状態に戻っております。たいへん喜ばしいことです。

東京支部においても本年度のスタートとして、4月23日（火）に「評議員会」が例年の形式で開催され、1年間の事業計画も承認いただきました。昨年は、秋の「親睦大会」を例にとると、会場を密にすることを避けるために人数制限を設ける必要があったことや、遠隔地からリモートで参加される方を見込んでWEB配信を併用したこと、物価高に伴う会場費用の値上がりなど収入が頭打ちになったことに加えて支出が増えたことにより、単年度では赤字の決算となつてしまいました。ただ、評議員会では、その点ではなく、将来にわたつてこの東京支部を継続発展させるために、もっと積極的に経費をかけるべきではないかななどの前向きな指摘をいただきました。そのようなご意見も追い風に「持続的な支部活動の実現に関するワーキンググループ」を新規に設置することに致しました。役員に限らず、皆様からいろいろなお知恵をいただきましたと考えております。

さて、今年の「親睦大会」は昨年までと会場を変えて、「東京グリーンパレス」にて、11月2日（土）13時から開催する計画です。例年、50歳になった期に企画をお願いしておりますが、今回は該当する期の皆様とコンタクトがとれなかったことから事務局が主体となつて企画・運営を検討していきます。多くの若手の皆様にもご参加いただきたいと期待しております。昨年も実施したとおり、今年の3月に高校を卒業した皆さんや大学在学中の皆さんを対象に「新人歓迎会」を7月7日（日）に開催しました。卒業と同時に自動的に同窓会に加入するシステムになっていますが、親元を離れて学生生活をスタートさせる期間に同窓会との継続的なパイプを作っていたいただきたいと願っています。また、若手の皆さんは最近ではLINEなどのSNSを通じてつながっているようなので、数名

で集まる機会がありましたら東京支部からも費用の補助もありますので、ぜひ、活用していただきたいと思います。

世の中の変化とともに、同窓会の意義や企画運営も少しずつ変わっていくことが求められていくものです。変わらないものとして、白楊ヶ丘同窓会設立当初から、毎年、すべての会員の方に参加を呼びかけて「親睦大会」を開催してきました。数年間、リモート開催を経験してきましたことを振り返ると、インターネットの通信手段を駆使して遠隔地の方と同じ時間を共有できるということが最大のメリットであったと感じています。ただし、膝を突き合わせて少し函館弁まじりでお互いの近況をゆつくり話し合うような同窓会ならではの場面の提供までは難しいということがわかりました。元のとおり、そのような場を提供できるということは、たいへん喜ばしいことです。

課題は持続性です。諸物価の高騰や郵便料金の値上げが想定されています。直ちに全面的にこれまで行ってきたことができなくなるというようなことはありませんが、多くの会員の皆様から毎年、会費をいただいている一方で、諸事情があることと推察しますが、数年来ご連絡をいただいていない会員も少なくありません。皆様のニーズに叶っているのか、さらには、将来の同窓会運営の担い手をつかりつないでいくために、今、打つべき施策があるのではないかと、いうようなことも、数年続いた新型コロナウイルス感染症の副産物として検討するきっかけになつたように感じております。

同窓会は、同じ函館の地で青春時代を過ごしたという一点でつながっています。幅広い年代の方の集まりであり、今後継続発展していくためには新卒者をはじめ若い同窓の皆様が参加しやすいものであり続ける必要があると考えております。

同窓会の運営などにつきまして、皆様から忌憚のないご意見・ご要望をいただきたいと思います。

引き続き、会員の皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

「白楊魂」の継承と成長し続ける函中生



北海道函館中部高等学校
第41代校長

清水 信彦
(第86期 昭和59年卒)

白川正広支部長様をはじめ、白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様には、日頃より本校の振興と教育活動へのご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。私は、昨年度、石狩管内江別市の大森高等学校から赴任し2年目となりました。清水信彦と申します。私自身、本校の同窓会の一員ですので、校長として母校に赴任できたことをたいへん嬉しく、また光栄に感じています。微力ではありますが、道内有数の歴史と伝統を誇る名門函中のさらなる充実・発展に向けて尽力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) 通常を取り戻した教育活動

昨年5月の新型コロナ感染症の第5類への移行から、ほぼ制限のない通常の教育活動が戻ってまいりました。授業では、これまで制限されていた対話中心のペアやグループワークも活発に行われ、行

事では5月に快晴の中、昨年4年ぶりに復活した大沼での耐久レース・春季遠足を実施しました。また、7月には高校生活最大のイベントである白楊祭を2日間の一般公開を含めた3日日程で行います。今年は最終日に打上花火で締めくくる後夜祭を開催することとしました。通常を取り戻した学校生活ですが、コロナ禍以前の形に戻すだけでなく、特に行事では生徒が主体的に創意工夫ある新たな企画・運営する形で進めているところです。

(2) 理数科設置3年目・スーパーサイエンスハイスクール(SSHS指定校) 5年目

理数科の設置から3年目となり、普通科4クラス、理数科1クラスの5クラス編成の完成年度を迎えました。理数科では、科学的事象に興味をもち、筑波宇宙センタージャAXAの研究施設や本郷の東大キャンパスの訪問等をおし、理科や数学等の専門性を高め、その専門性を将来にわたって追究しようとするスペシャリストの育

成を目指しています。また、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール(SSHS)」の指定を受けて第1期最終の5年目を迎えています。普通科・理数科共に全校生徒が、大沼の自然環境調査、課題研究の発表、また大学教授による講演会や研究施設を訪問するなかで、自らが問いを立て、その問いを解決するためにデータを活用した探究的な学びを深め、世界で活躍できる科学系人材の育成を目指しています。

(3) 令和5年度(2023年度)卒業生の進路状況

この3月に卒業した5クラス193名の大学受験等の合格者数は、国公立大学が延べ139名、私立大学・短大延べ207名、高等看護学校延べ6名、専修学校1名となっています。特に、国公立大学の現役合格者が卒業生在籍数の約72%という昨年度の過去最高約70%を更新する合格率となりました。内訳は、東京大学2年連続現役合格1名、京都大学1名、大阪大学1名、東北大学5名、北海

(4) 健闘光る函中部活動

道大学14名、医学部医学科5名をはじめ、難関国公立大学にも合格者を輩出しています。私立大学においても、早稲田、慶応、明治、法政、立教、中央、青山学院など首都圏の大学に多数の合格者を出しており、たゆまぬ努力を継続した生徒たちの頑張り実績は北海道内においても順位を上げ高く評価されています。



30年ぶりの全道大会進出を果たしたバレーボール部

部活動については、全校生徒の加入率が約90%の中、陸上競技部、テニス部、バスケットボール部、

バレーボール部、卓球部、バドミントン部、剣道部、弓道部、囲碁・将棋部、放送局、書道部、LMC(軽音楽部)、水泳、ソフトテニスなど昨年度以上に数多くの部活動が全道大会への出場を果たし、函中部活動の健闘が光っています。今年度もぜひ多くの部活動が全国大会へ進出する活躍をみせることを大いに期待しています。

結びになりますが、本校は、これからも「白楊魂」を柱とした函中の輝かしい伝統を継承しつつ、社会の動向や未来を見据えた教育活動に積極的に取り組み、この変化の激しい時代に求められている「次代を創造する人間」として成長し続ける函中生を育む生徒主体の教育を推進してまいります。同窓生の皆様には、今後とも本校の教育活動に対して多大なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。



親睦大会報告

親睦大会報告



92期 全員集合!

2023年11月4日(土)、第47回白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会が4年ぶりに対面、アルカディア市ヶ谷にて開催されました。今大会の幹事は平成2年卒業の92期生でした。同じく四年ぶりに制約のない形で行われた第74回白楊祭をテーマに函館取材を進め、中部高校と連携を取りながら楽しい企画を実行いたしました。

【開場準備】

親睦大会のために函館から駆けつけて下さった方々を含む92期と理事会メンバーは、10時30分に集合し、会場の設営、受付準備等を開始しました。コロナ禍以前の対面形式と同様の準備と共に、今年は初めて対面とオンラインのハイブリッド形式の試みを行いましたので、その準備も念入りに行いました。



打ち合わせ中

【開会】

総合同会は、78期の岡部あさ子副支部長、おなじみの和やかな語り口で定刻どおり13時に開会いたしました。



司会の岡部副支部長

【支部長挨拶】

白楊ヶ丘同窓会東京支部長76期の白川正広氏より開会宣言と四年ぶりの対面での開催となったお喜びのご挨拶でした。



支部長挨拶

【同窓会歌斉唱】

美しい函館の風景に歌詞が付いた動画を流し、皆で斉唱しました。

【来賓ご挨拶】

今回は各校同窓会の代表を含め合計10名のご参加をいただきました。

来賓を代表して中部高校の清水信彦校長先生(86期卒)、函館市経済部企業立地担当課長の竹崎太人氏(89期卒)よりご挨拶をいただきました。

清水信彦校長先生は中部高校の進学率や部活動、今の生徒の気質や学校生活、令和2年より文科省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校になった等、中部高校の詳細について画像を交えつつお話し下さいました。



清水校長ご挨拶

竹崎太人課長からは現在の函館の市政・産業状況、大泉新市長体制になってからの施策取り組み、ふるさと納税や、企業誘致、函館UIターン就職の案内などを、プレゼンテーション形式でご説明いただきました。



59 期真船昭氏

【乾杯】
今大会の参加者で卒業期が最も上の59期真船昭様に乾杯のご発声をお願いしました。真船氏は、85歳の現在も現役として活躍されており、東京支部の会計監査をお願いしておりますと共に59期評議員として同期の取りまとめ役を担っておられます。乾杯の後歓談に移り、久々の再会の喜びに会場が包まれました。



函館市より竹崎氏



イベントご挨拶

【イベント】
92期によるイベントの初めに、鈴木（旧姓吉谷）智美氏が挨拶し、司会の坪内君枝と動画担当の服部州恵氏を紹介しました。更に同期数名の紹介の後、「復活！白楊祭」と題した服部氏制作の映像が披露されました。2023年7月開催の白楊祭取材し、コロナ禍後生徒達が熱い想いで創り上げた学園祭を楽しみクイズと共に紹介したものです。クイズはテーブル対抗形式で、豪華な賞品があったため、大いに盛り上がりしました。最後に第69回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会優秀賞受賞という輝かしい経歴を持つ中部高校放送局の生徒達が作成した動画も紹介しました。



松永副支部長

【インフォメーション】
松永久副支部長（81期）より来年度発行の「白楊だより47号」の原稿の募集と、函館市提供の品々のご紹介がありました。また、別会場にて84期画家今井雅子氏の冊子「明治25年函館元町」販売、92期画家服部州恵氏による神の愛と光に満ちた絵画とそのポストカード販売、92



92 期製作ビデオ上映

【校歌斉唱・三本締め】
恒例の校歌斉唱では、今回のイベントを企画した幹事期である92期の皆さんは全員が登壇、会場の全員が起立し、声を出して歌える喜びと愛校心を胸に、高らかに校歌を斉唱しました。



92 期ご挨拶

期川崎宏氏（珈琲文庫）による焙煎珈琲、事務局による五島軒の校章入りクッキーとパイの販売が行われていることをご案内しました。

天候に恵まれ、とても良い親睦大会となりました。取材に協力して下さった中部高校関係者の皆さま、お土産やポスターをご提供いただいた函館市役所、クイズの賞品を提供して下さいました皆さま、ご指導いただいた先輩の皆さま、お手伝いいただいた皆さま、そして来てくださった皆さまのおかげです。本当にありがとうございました。（坪内君枝 第92期）



汐見理事の3本締め

その後89期汐見和人事理の音頭で三本締めとなり、午後3時半に閉会となりました。



校歌斉唱



第 47 回 親睦大会出席者一覧

2023 年 11 月 4 日(土) アルカディア市ヶ谷

【来賓】(敬称略)

函館中部高等学校 校長	清水 信彦 (86 期)
白楊ヶ丘同窓会 会長	室田 晴康 (75 期)
白楊ヶ丘同窓会札幌支部 副支部長	牧野 光紀 (92 期)
白楊ヶ丘同窓会関西支部 支部長	寺地 徹 (81 期)
白楊ヶ丘同窓会宮城支部 支部長	近藤 弘 (76 期)
函館市経済部 企業立地担当課長	竹崎 太人 (89 期)
函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部 会長	折田 信一
函館東高等学校関東青雲同窓会 副幹事長	辻 峰子
函館商業高等学校東京函商同窓会 会長	道下 佳拓
函館工業高等学校同窓会関東支部 支部長	本間 和吉

59 期 (昭和 32 年卒) 真船 昭
 60 期 (昭和 33 年卒) 飯田 幸平、水江 彰一
 61 期 (昭和 34 年卒) 菊池 紀邦
 63 期 (昭和 36 年卒) 鎌田 一良
 64 期 (昭和 37 年卒) 佐々木 京子、大原 淳一
 65 期 (昭和 38 年卒) 越前 彬
 67 期 (昭和 40 年卒) 松田 幹夫、安田 康次、相馬 研二
 68 期 (昭和 41 年卒) 山本 晴義、児玉 久美子、大河原 綾子
 69 期 (昭和 42 年卒) 梅田 五郎、梅田 やよい、佐藤 一廣、伊東 英一、
 奥野 政博、河村 裕、松坂 きみえ
 71 期 (昭和 44 年卒) 川村 哲雄、成田 秀信、古川 哲朗
 72 期 (昭和 45 年卒) 小林 繁治、佐野 香苗、神垣 善一、松本 浩、渡部 敏雄
 73 期 (昭和 46 年卒) 小野田 和子、山田 朗
 75 期 (昭和 48 年卒) 金丸 洋一、笹市 英昭、増田 博幸、宮下 知子
 76 期 (昭和 49 年卒) 赤坂 彰彦、白川 正広、高野 勝弘
 78 期 (昭和 51 年卒) 岩城 裕嗣、山平 匡人、岡部 あさ子
 79 期 (昭和 52 年卒) 樋口 澄則
 81 期 (昭和 54 年卒) 松永 久、常陸 千尋、松本 由美、渡邊 由美子
 84 期 (昭和 57 年卒) 今井 雅子
 85 期 (昭和 58 年卒) 加戸 茂樹、桑村 友章
 88 期 (昭和 61 年卒) 小島 和代、溝江 義一、内田 佳織、山田 力
 89 期 (昭和 62 年卒) 汐見 和人、齋藤 雅宏
 90 期 (昭和 63 年卒) 新井 久仁子
 92 期 (平成 2 年卒) 服部 州恵、坪内 君枝、砂山 幹博、吉谷 智美、
 川崎 宏、松山 留美子、庭田 貴子、林 道子、
 山本幸子、濱守球維、鳥居俊二、榎木史郎、林 真紀
 96 期 (平成 6 年卒) 今田 光信
 97 期 (平成 7 年卒) 野村 武史、田澤 琴美、松川 文弥
 99 期 (平成 9 年卒) 朝緑 高太、江田 あき子、山本 悠子
 105 期 (平成 15 年卒) 小林 秀輝

来賓 10 名、同窓生 77 名





1980年
パリで開催された国際免疫学会に
出席後、ミコノス島でひとやすみ



医学者（元札幌医科大学学長）

祝！瑞宝中綬章受章

今井浩三

KOZO IMAI 68期

【略歴】

- 1948年 函館市生まれ（千代田小学校→中央中学校）
- 1966年 函館中部高校卒業
- 1972年 札幌医科大学卒業
- 1985年 英国ケンブリッジ大学セザール・ミルシュタイン教授（1984年ノーベル生理学・医学賞受賞者）に師事。
- 2004年 札幌医科大学第9代学長
- 2010年 東京大学教授（医科学研究所・第19代附属病院長）
- （現在）
 - ・文部科学省「がんプロフェッショナル養成、並びに同基盤推進プラン」推進委員会委員長
 - ・国立研究開発法人日本医療研究開発機構 プログラムスーパーバイザー（PS）
 - ・北海道大学遺伝子病制御研究所招聘教員、客員教授
 - ・神奈川県立がんセンター特別招聘研究員
 - ・札幌しらかば台病院先端医療研究センター所長

【受賞・栄典】

- 1978年（昭和53年）アメリカ国立衛生研究所 Fogarty International Fellowship
- 2005年（平成17年）国際癌医学生物学会賞
- 2009年（平成21年）日本DDS学会賞
- 2013年（平成25年）紫綬褒章
- 2015年（平成27年）日本癌学会学術賞長與又郎賞
- 2020年（令和2年）北海道功労賞
- 2023年（令和5年）瑞宝中綬章

インタビュー：87期 荒谷 修司

■（荒谷）このたびは瑞宝中綬章の受章おめでとうございませう！

2013年には紫綬褒章を受章されていますから今回は2度目となりますね。医学の難しいことはよく分からないのですが、簡単に言うところのどのような研究がされてきたのでしょうか

□（今井）一言でいうと癌の研究です。癌細胞というのは中々治療で治らないんですね。だから人を倒すことがあるんですけど、その癌にある標的分子（マーカー）を見つけて新しい治療に結びつけるという研究をしています。今まさに「がん研有明病院」で臨床試験をやっているところで、新しい治療法に繋がると思います。

■なるほど。それが実用化されるとどういう未来が待っているのでしょうか

□色んな癌、特に膵臓がんや肺がんといった難しい癌の治療ができるようになります。我々はそういう癌の標的分子を世界で最初に見つけて新しい治療方法も考えたんです。そこが新しいところなんです。

■それは画期的ですね。研究を続けて来てどういふところが

変でしたか？

□癌の研究を始めて50年近いんですが、色々迷いながらうまくいかないことばかりで、やっとここ5年くらいで形が見えてきたというのが実感です。なんでもそう簡単にはいかんのですよね、何でもね。ありとあらゆることを試して、試行錯誤しながら、うまくいったりいかなかったりしてずっとやってきましたね。ずっと最先端をやっているんですけど、最先端であるほど技術はすぐに古くなる。世界的に競争が激しい分野ですから、ちよつと沈滞したらすぐに追い越される厳しい世界ですよ。でもね、「日本から新しいものを出したい」というのは常にあるわけです。だんだん歳を重ねるとそういう思いが強くなっていきましたね。

■先生の夢はなんですか？

□難しいと言われる「膵癌」を治せるようにしたいと思っています。それはものすごい大きな仕事で、人類にとっても大きな進歩になると思っています。

■医者を目指したきっかけは何かだったのでしょうか？

□漠然と人のためになりたいというのではありませんが、シユバ

イツアーの伝記を読んで医者がいっぱいじゃないかなって思っていましたね。

■医者としての転機は何だったのでしょうか

□やはりケンブリッジでのミルシュタイン教授との出会いでしょうね。ケンブリッジの前にアメリカの研究所におり、色々な動物から抗体を取るということをやっていたんですが、抗体を人工的に作ることをやっている人がいる、その人がケンブリッジ大学にいたということを知り行くことに決めました。

ケンブリッジに行った1985年というと日本は絶頂期で、イギリスはちよつと落ち目の時代でした。ところがいざ行ってみると、このケンブリッジ大学というのはDNAを見つけてノーベル賞を取ったワトソン博士とクリック博士の出身校だったんですね。他にも15、16人がノーベル賞を取っている

とんでもない大学で、学問の世界ではものすごい勢いがありました。それを肌で感じさせていたのが転機だったと思います。

ミルシュタイン教授は1984年にノーベル賞を受章し、行ったのはその1年後だっ

たんですが、色々勉強させていただきました。彼が発見した1984年から10年くらい経ってからは抗体が出てきて、薬として抗体が取られるようになって、それからずっと今に至るまでもうもの凄いい勢いで、癌だけではなくて高脂血症だとか感染症だとかアレルギー疾患だとか、ありとあらゆる病気に抗体医薬というのが医療の中で使われるようになってい

た。彼は人類にとつてとんでもない発見をしたんだと思います。2000年を超えてからも今に至るまですごい種類の抗体が、今や薬といえは抗体になってしまいうぐらいの勢いで増えていきましたね。私はラッキーだったと思います。

■中部の後輩に一言お願いします
□座右の銘は「努力と挑戦」です。努力を重ねることによって少し叶うこともある。昔は挑戦だけだったんですが、努力することでも挑戦することも両方必要だなと最近思うようになりました。若い人も、そう考えて頑張ったら何でも手に入ると思います。

■ずっと努力し挑戦するのは普通の人なら疲れるだろうし長続

きしなかったりすると思います。が、長続きする秘訣はありますか。

□環境を変えるというのは一つあると思います。留学だったり職場を変えるだったり。自分が持っていないものや或いは気づいていなかったものに気づきかけにもなると思います。外に出る、外の空気を吸うというのは重要だと思っています。

■確かに人間、同じところにずっといると成長できないし、つまらないですよ。

近い将来、難しい膀胱癌の治療方法が確立されることを期待しております。本日はありがとうございました。

【荒谷感想】

歳を取ると、残りの人生を逆算して考えがちですが、今井さんは、いくつになっても努力と挑戦を惜しまない生き方を続けてらっしゃる、しかも人類の未来のために研究を。格好良いな、素敵だなと感じました。(勝手に)後輩として鼻が高いです。あらためまして、瑞宝中綬章の受章おめでとうございます。



1979年
アメリカカリフォルニア スクリップス研究所 留学中のクリスマス
世界各国からの研究者と



1986年
日本癌学会の特別講演にミルスタイン博士が来日
(札幌市)



2005年
ギリシャで開催された国際癌会議で ISOBM 学会賞を受賞



2008年
東京で ISOBM 学会を主宰した。
懇親会での挨拶。



酔いどれ小説家

趣味も仕事も酒も全力で楽しむ達人

小滝 亮太郎

RYOTARO KOTAKI 80 期

【略歴】

1959 年 和歌山県生まれ
長万部小学校（小6～）
長万部中学校卒業
1978 年 函館中部高校卒業
1983 年 早稲田大学政治経済学部 政治学科卒業
1983 年～2006 年 日本IBM
2006 年～2008 年 日本NCR／テラデータ
2008 年～現在 日本マイクロソフト 業務執行役員
戦略パートナー担当

インタビュアー：87 期 荒谷 修司



TSUTAYA 書店でのサイン会にて



■今回、題材として「土方歳三」と「函館」を取り上げたのはなぜなのでしょう？
□親父が海上保安庁に勤めており、いわば転勤族でした。小学校6年生の時に長万部にやってきて、中学校までそこで過ごし、その後、函館中部高校に入学し卒業するまで下宿に住んでいました。函館で過ごしたのはわずか3年間でしたが、多感な時期を過ごしたせいか、とても思い入れの深い街で、いつか函館を舞台にした小説を書こうと思っています。土方歳三については、司馬遼太郎の『燃えよ剣』では、死に場所を求めて函

■（荒谷）この度は小説の上梓、おめでとうございます！（小滝）ありがとうございます。5年前、還暦を迎えた時に、65歳までに5冊の小説を書きあげてことを宣言して、『マックドラッグ』、『漂泊のエレナ・萩原朔太郎の恋』、石川啄木を題材にした『釧路にて・啄木の76日間』、『あなたに逢えて・土方歳三 最後の秋』と書いてきたのですが、今回の『テレグラフ・ヒル』は、函館に渡った土方の最後の7か月を描いたもので、ちょうど5冊目の完結編になります。

■今年の4月に小滝さんの同級生の片瀬さんから、函館を題材にした小説を書き上げた方がいらつしやるので同窓会報で紹介してほしいと依頼がありました。その本がAmazonでも販売しているとのことだったので、じゃあ取り上げる前にまずは読んでおかなきゃな、ということで軽い気持ちでポチったの



HAKODATE 街角ラジオ FM いるかで自作を語る

館にやってきたとなっていますが、僕は違うんじゃないかと思っています。彼は新選組から脱皮して、新たな生き方、新たな大義を求めて函館にやってきたんじゃないかなと。そういう新たな土方像を書きたいというのもありました。

ですが、実際に本が届いて驚きました。なんと748ページもある！しかも一番後ろ「未完」と書いてあって、ちよつと意味が分からなかったです（笑）その後間もなく小滝さんご本人から連絡をいただき、50ページほど追加した第一版が完成するのと、出来上がり次第すぐに送ると。4月の下旬くらいに送られてきたので、ゴールデンウィーク中に読破してやろうと読み始めたのですが、何せページ数が約800ページもある上に、表現も漢字も難しい、おまけに登場人物も多くて、その都度パソコンで調べながら読み進めることになりました。結局ゴールデンウィークをすべて費やし、ようやく読み終えることができました。2024年のゴールデンウィークはこの本を朝から晩まで読んでいたな、というのが死ぬまで記憶に残ることになると思います。

■読んだ感想ですが、ご本人を前にしているから言うわけではないですが、ホント凄かったです。正直言いますと舐めていま



函中時代 後列左端 学友と

した、ごめんなさい。若い頃から小説家でやってきたわけでもないのに、65歳になって書く小説なんて・・・という気持ちがありました。実際に読んでみると、圧倒的な情報量とリアルな表現力に魅了されました。完全に大小説家だなと。やはり司馬遼太郎がお好きだったのですか？

□いいえ、高校時代は函館で土方歳三が戦って死んだということも知らなかったし、大人になつても司馬遼太郎にはまるということは無かったですね。

メルヴィルの「白鯨」とか、ガルシア・マルケスの「百年の孤独」とか、あるいはハイデッガーの「存在と時間」とか、サルトルの「存在と無」とか、海外ものばかりで、しかも哲学好

きなんです。だから理屈っぽく言われるんですが（笑）天の邪鬼というか、へそ曲がりというか、常に世の中を正面から見ないで。なぜなぜなぜと掘っていく癖がある。いわゆるアウトサイダーというかね。

■土方歳三が最後に過ごした函館での7か月間、当時の函館の様子、函館戦争を共に戦った仲間たちとのやり取り、松前勘解由や松前藩のこと、高田屋嘉兵衛のこと、アイヌ民族との関係などなど、まるで本当に見聞きしてきたかのようにリアルに再現されていました。また、函館は自分が生まれ育った街なのに、今まで全然知らないで生きてきたんだな、ということにも気が付かされました。また、日本マイクロソフトの業務執行役員でもあるわけで、相当忙しいとお見受けしますが、どのように執筆活動をされていたのでしょうか？

□小説の中にもありますが、函館の大町にアパートを借りて、来るたびに一週間くらい滞在して色んな情報を収集しました。同級生だったり飲み屋のオヤジだったり、市長候補だったり、副市長だったり。どこでも書けるから、のべつ幕なしで書いて

いましたね。もちろん仕事もしているからすきま時間を使って。ちなみに、そのアパートは、函館出身の作家、佐藤泰志の映画「海炭市叙景」の舞台にもなったところで、アパートの全景がZ型になっている一風変わった建物です。

■小説ではペリー艦隊が来た当時の「Hakodadi」、榎本武揚率いる幕府艦隊とともにやってきた土方最後の7か月当時の「箱館」、そして現在の函館がそれぞれ描かれています。小滝さんは函館という街をどのように捉えているのでしょうか？

□今の函館は、街が放置されているような感じがして寂しいですね。

函館は常に外から機会を与えられて輝いてきた街、という捉え方をしています。バブルの一回目は高田屋嘉兵衛バブル、二回目は開港バブル。当時は北前船による交易が盛んで、松前や江差の方が函館よりもずっと繁栄していました。幕府はそういう繁栄している港を避け、まだ田舎の漁師町だった函館に白羽の矢を立てて開港した。しかしながら外国の船がこれからバンバン入るようになったら危

ないので、莫大なお金も、優秀な人材も惜しみなく投入した。そこから函館の発展が始まりました。その次のバブルが函館戦争で、その次のバブルが北洋漁業の基地となったことです。函館は150年以上も前から色々なバブルを享受しながら発展してきた街であり、他の街にくらべると自分たちの手で発展させてきたというところは、少なかつたんじゃないかなと思つています。ただ、与えられるというところは素晴らしい地形であったり、文化・歴史・物語であったり、街としてのポテンシャルがあるからこそです。あとは様々なものを受け入れる寛容さがあったということですかね。高田屋嘉兵衛は淡路島の人です。彼は松前でも江差でもなく、函館で事業を興すわけですが、函館の人たちには彼を受け入れる気風があったということかと思えます。ただ内発する力というか、ベンチャースピリットというか、そういうものが乏しいのは残念に思います。例えば函館には「はこだて未来大学」というベンチャースピリット溢れる学生を輩出する素晴らしい大学があります。東京でIT関係の仕事をしています。我々から見ても、この卒業生は素晴らしい方が多い



出版記念パーティー マイクロソフト社員と

のですが、地元では中々雇用されないことがあり、この大学の良さに気づいていない方も多いのではないのでしょうか。

■ これからの予定というか夢みたいなのはありますか

□ 函館のこれからの10年に注目しているの、その変貌の様子を小説として書いてみたいと思っています。自分も65歳はもう終わったから、次はChapter 2をね。起承転結でいくと、今まではまだまだ「起」です。70歳に向けて「承」になり、70歳からは「転」で、本当に世の中に受け入れられるような小説、若い人も含めてみんなが読みやすく理解できるように小説が書けるようになればいいなと思っています。「結」はいつ来るかわかんないけど(笑)

■ ずっと転が続くんじゃないですか？ 転転転・・・(笑)

□ 転がつっていると昔もむさないしね。やっぱり、年とってただボートとしているのは、エキサイティングじゃないから。いいね、ローリング・ストーンズみたいで。限られた時間をどれだけ有意義に過ごすか。時間は金じゃ買えないからね。

■ 在校生や若い卒業生へのメッセージをお願いします

□ いわゆる「白楊魂」というのは、向上心や生命力、成長力を



IBM時代 NYにて

意味しますが、それとは別に中部高校には「函中スピリッツ」というものがあって、反骨の系譜というか、アウトサイダー的なものが脈々と息づいています。今ある事象を正面から見ただけでなく、常に色んな角度から見てみる。それって本当なの？ 背景にこういうことがあるんじゃないの、なぜなぜなぜ・・・と深く考えて、自分自身の未来につなげていってほしいと期待していますし、僕もずっとそうあり続けたいと思っています。

函館には『peeps hakodate』という人気のフリーペーパーがあります。とてもクオリティが高く、配布するとあつという間に在庫がなくなることで有名ですね。編集長の吉田さんも存じあげていますが、「昔は良かった」、「あんな素敵な場所があった」、「こんな渋い飲み屋があった」って、ずっとやってる(笑) これはこれで貴重な記録ではあり、我々のよ

うなある程度歳をとった年代からすれば、ノスタルジーに浸れ、懐かしい思いがこみ上げてくるけど、それを知らない若い世代にはどう映るのでしょうか。「ふーん、昔は良かったのね、今は寂れちゃってるけどね」って、そう感じるだけで終わってしまうかもしれない。これだけ発信力があるのだから、もっともつと未来に目を向けられるものにしてほしいなと、僕なんかはファンとして思っています。

小説 テレグラフ・ヒル

タイトルの「テレグラフ・ヒル」はペリー艦隊の水兵たちが、初めて函館山を見た時に思わず叫んだと言われる故郷サンフランシスコにある丘の名前です。

新政府軍に最後の戦いを挑むべく、榎本武揚率いる旧幕府艦隊とともに、仙台から真冬の函館に渡った元新選組、鬼の副長、土方歳三。青森に結集した新政府軍が函館へ侵攻した翌年5月まで、35年の生涯最後の7か月間を、土方とその仲間たちは函館の町でどのように過ごしたのか。

150年を超える時の流れに朽ち果てようとする過去を掘り起こし、現代の光の中へ魅らせて、これまでにない土方歳三像を描くことを目指しました。

合わせて、北の港町函館に暮らす戦後昭和世代の2021年から12年間の喜怒哀楽を、150年前の幕末に戦われた箱館戦争と交差させながら、フィクションと想像を交えて綴ってみました。



同期会だより

47年間毎年開催

第59期 真船 昭

第59期の同期会が始まったのは、今から47年ほど前、30代の最後でした。場所は、渋谷の羽沢ガーデンで、永長先生をお呼びしての集まりでした。

その後、私が万年幹事となり、毎年開催してきました。雨にも負けず、風にも負けず、さらにコロナにも負けず毎年開催してきました。

新橋の中華料理店での開催が多かったのですが、そのほか、栃木県的那珂川までバス旅行をし、築場で鮎を食べた事、新宿御苑で満開の桜を楽しんだことなどなど懐かしい思い出です。

いまや、かつての秀才達もただの爺さんとなり、かつてのマドンナ達もそれなりの婆さんになりました。さらに、ここ数年一人減り、二人減り、あるいは体調を崩すなどで参加者も減り、

今年の同期会は、遂に16名の参加者のみとなりました。会は、亡くなった仲間の訃報、それから献杯をしてから始まります。会食が始まり、歓談が一段落してから、各人5〜6分程度の近況報告をします。

今年は、最後に母校の校歌を斉唱し、そのあと90歳まで同期会を続けようと言って散会となりました。



第一回同期会
(47年前、昭和 52 年、
西暦 1977 年)



左：
新宿御苑での花見



右：
栃木県那珂川のやな



2024 年 5 月
新橋の中華料理店
にて

昨年に続き、開催して
よかった三三三会東京支部

第60期 飯田 幸平

1・はじめに

函館中部高校で3年間を一緒に過ごした出会いは、正に一期一会（その時の出会いは生涯において一回しかないこと）であったことを確認した三三三会でした。

2・三三三会の開催

2023年10月23日（月）の午前11時半頃から全国の会員が三々五々、如水会館の会場に到着し始め、担当の水江さんと山根さんによる受付が開始されました。会場の正面の壁に飾ったに「一期一会」の掛け軸が皆を出迎えました。12時に三三三会が始まりました。司会進行の幹事飯田からの概略スケジュール紹介後に、幹事を代表して内藤さんから開会の辞がありました。27名の同期生が無事集まったことに感謝し、同期の物故者への黙祷がありました。神戸から参加した奥寺さんから、皆さんの健康、長生きと次回の再会を願って、乾杯の発声があり、会食、懇談に入りました。



懇談後間もなく、会員全員から現況報告が始まり、今の心境や取り組んでいること等の話がありました。以下その内容の一端です。

★皆さんに会えて元気を沢山もらい、次回も皆さんと会いたいです。

★まだゴルフを楽しんでおり、スコアもエイジシュート年齢以上も出せる体力があるのは大変ありがたいです。

★昨年の東北での三三三会に思いがけなく参加し、東京での会

に出席できるのは嬉しいです。

★連れ合いと喧嘩をしても90%勝ちます。

★ボランティアで相続などの法律相談を長年担当して、今の世情に感ずるものがあります。

★孫の成長を楽しみにしていた連れ合いに先立たれ、再会した時にその成長ぶりを報告する為、長生きをしたいと思います。

★連れ合いが事情のある子女を自宅に預かるボランティアを長年続けており、仕事の定年後それを手伝い、今は積極的に協力しています。

★まだ仕事を続けており、技術開発にお客さんとの対応に汗をかいています。

★連れ合いをなくし16年、家事万端が出来て充実した毎日を送っています。

上平さんから閉会の辞があり、参加の謝辞と次回また元気な姿で再会したいとお願いしました。記念写真撮影後、二次会の会場へ移動しました。

3・二次会での懇談

広いラウンジでは大型ソファが用意され、コーヒーを飲みゆつたりとした気分になって話も弾んだものでした。名残は尽きませんが午後6時過ぎに解散し、遠距離から参加の会員は

宿泊の学士会館のホテル他へ、近県の会員は自宅へ向かいましました。

4・浅草とスカイツリー観光 (参加希望者のみ)

10月24日（火）は朝から快晴の旅行日和でした。観光参加希望の会員12人は東京駅南口の9時発の定期観光の黄色い「はとバス」に修学旅行気分で乗車しました。バスガイドから旧江戸の旧跡、現東京の建物等の説明を聞いていたうちに、バスは浅草寺裏の駐車場に到着しました。記念写真の撮影後に浅草寺の見学が始まりました。修学旅行を含めいつもは雷門から本堂へ観光しますが、今回は逆回りでしたので新鮮な目？で仲見世通りを散策しました。境内は東南アジア、欧米、豪州などの海外からの観光客の人込みがとにかく圧倒的でした。

修学旅行の思い出の浅草寺にお別れして、墨田川を挟んで乗車10分位でスカイツリーの広い駐車場に到着しました。スカイツリーは高さ634m、天望デッキ350mです。エレベーターは分速600m、50秒で天望デッキへあつという間に到着。エレベーターから降りた所の天望デッキからは、目の前に幅の



広い墨田川の船の往来や、浅草寺の境内が見え、上野恩賜公園、遠く新宿の高層ビル群、そしてその先は曇りで霞んでいました。ガラス床からは遮るものもなく一挙に350m下を眺められますが、高所恐怖症の身は恐る恐るガラス床の手前の床から見るのが精一杯でした。名残の東京の遠景を眺めて、タワーの見学は終わりました。帰路のバスは銀座へと向かいました。幹事の松田さんが過ぐる日に勤務していた銀座4丁目の服部時計のいるビルの前を通過しました。皇居前が見えてからバスは右折し

て東京駅南口の発着場へ到着しました。ここで解散し、会員はそれぞれ羽田空港へ向かう者、KITEへ行く者に分かれま

5・終わりに

東京での三三会も無事終わり、参加者からは早速次年度は函館で、母校訪問等の声が多数ありました。今回も開催して良かったと思ひ、幹事一同感謝しています。今回の如水会館の利用に際し、上平さんの友人である一橋大学OBの服部さんの尽力があり、同氏に感謝します。

喜寿志丸会in大沼

第67期 松田 幹夫

函中を昭和40年に卒業したことで、語呂合わせで「しまるかい」の愛称で呼び、活動を始めたのは函中100周年記念式典の時、湯の川プリンスホテル(渚亭)に67期の同期75人集まったことが最初です。

志丸会は函館本部、札幌支部、東京支部に分類されますが、北海道以外は広範囲ですが東京支部が面倒を見ることにしました。

志丸会のイベントは各支部が5年毎に交代で幹事を引き受け、全国に散らばっている仲間に参加を掛け、幹事が決めた開催地に集合します。

志丸会で開催した大きな行事は、函中100周年記念(函館)、2000年志丸会(札幌)、還暦志丸会(東京)、ふるさと志丸会(函館)、古希志丸会(札幌)そして昨年の幹事は東京支部でしたが開催地は函館で喜寿志丸会を開催しました。

喜寿は77才の祝い事ですが、本来数え年で行いますので我々が76才の時は新型コロナ禍真っただ中で断念、昨年やっと収束しつつ不安ではありましたが、77才で喜寿の祝いをやろうと決意し、祝賀会、宿泊は函館市内でと悩み考えましたが、コストパフォーマンスが良く、10月はちょうど紅葉のきれいな大沼のグリーンピアで催すことにしました。

高齢なので手間を省くために、案内状、出欠の返事は印刷物の郵送は無くして、スマホも大分行き渡ったと判断し、全てメールで連絡が取れる様にしましたが、うまく連絡出来なかった人、近づくに住む友人に連絡をお願いしました。最終的にメールで連絡が取れ



なかった人は3〜4人程度で割と少なかったと思います。

2023年10月17日のメールで招集を掛けた結果、函館13人、札幌11人、東京から11人、計35名が紅葉の大沼に集合しました。この年は異常気象で紅葉が遅れ模様・大沼散策希望者は昼過ぎに大沼公園駅に集合し、大沼在住の渡辺君の案内で大沼定番の駒ヶ岳バックで記念撮影し「千の風になつて」のモニユメント見学、ポチポチ紅葉し始めた景色を眺めながら、約1時間散策し、湖畔のレストラン「リバージュ」へ到着(実は渡辺君は千の風モニユメント、リバージュを設計した大沼の芸術家なのです)。

私はずーとリバージュ所有の食事のできるボートに乗りたかったのですが、この度念願がかない、初めてボートに乗せてもらい、湖上から紅葉、駒ヶ岳を眺めることが出来感激しました。

メインイベントの祝賀会は4人〜5人/1テーブルで丸テーブルを囲み、喜寿志丸会の開始宣言を東京幹事の加賀君の発声で開始、式次第もプリントではなく、プロジェクトで壁に投影し簡素化しました。特に金の掛かるイベントは催

株式会社イコー建設

一級建築士事務所

代表取締役 佐藤 一廣 (69期)

〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F
電話: 03 (3223) 0168(代) FAX: 03 (3223) 0658
mail: k-sato@f-rn.co.jp

火ばしら会

東京支部



昭和42年

69期

さず、食事中は我々が高校時代に流行った曲を、ユーチューブから流し、2次会は同じ会場、志丸会で開催した大きな行事で撮った写真をピックアップしてスライドショーを作成、これを見て昔を懐かしみましたが、30年前の写真は「若かったな!」の一言に尽きました。

3次会は幹事部屋に男だけ集合(女性に声かけるのを忘れたため)次はいつどこに集まろうかとの話し合いでしたが、皆さん昔ほどの元気はなく、ダラダラと飲んでいただけで何も決まらずでした。

次の日は朝から雨模様、朝食後ホテルロビーに集合し、解散式を行い次にまた元気で再会できるようにお互いハイタッチで別れを惜しましました。

実はまだイベントが残っており、昼食はグリーンピアでジンギスカンを食べましたが、肉は柔らかく、味もよく、皆さん出てきた肉は全て食べきったようですが、ご飯はほとんど食べずに残していた人が多かったです。

来年秋は函中130周年記念行事があり、我々は傘寿(80歳)の祝いも開催したいと思えますので、この機会に又函館で元気な皆様方とお会いすること祈っております。

よいよい会報告
第68期 木戸 正文

毎年二回(一月と六月)首都圏在住者を中心として同期会を開催していたがコロナ禍の影響で中断していた例会を再開した。六月例会は六月二十九日、上野公園、西郷さん銅像下のビルにある「音音」で開催した。四年ぶりの開催となったが十八人の皆さんが元気な顔を見



せてくれた。小田原から越中谷君、しばらくぶりで相馬君が出席。

再会と健勝を祈念して乾杯。大河原さん作成のくじ引きの後、近況報告に移った。運転免許更新の際の認知機能検査で百点取ったとの話、「ユーチューブ」にアップの模擬試験で練習するとバツチリいけること。長崎君がウィキペディアの消息欄に逝去と記載され、出版社から問合せがあったこと。ヨットの目黒君はまだシニアクラスで参戦していること。山本君がタ刊フジで人生相談のコラム欄「山本晴義医師の心の健康相談室」を執筆していること。他には、ワイン畑に出資し近々出荷となること、語学講師をしていること、孫の世話に明け暮れていること、会社上場の際はハワイにご招待、等々の報告があった。後期高齢者の集まりとは思えないほどワインのデキヤンタが空いた。今回は来年一月・六月に例会を開催。今回都合のつかなかつた方、是非ご出席いただきたい。ご案内はメールでお知らせしています。

木戸宛お問い合わせください。
icb10806@nifty.com

東京さつき会
5年ぶり同期会開催顛末
第72期 小林 繁治

72期東京同期会(函中東京さつき会)は、5月18日(土)、日本橋の鉄鋼会館にて開催された。コロナ禍の空白を経て待ちわびた5年ぶりの開催となった。首都圏在住者を中心に、札幌、函館、長崎など遠方からの参加者も含めて総勢56名が出席して賑やかな会を開くことができた。準備に当たっては、5年ぶりだけに、次第に老いて過去の設営の記憶もまたら模様になった。在京幹事を中心に昨年12月来、案内の運び、会場選定、運営等々、凝る首筋をひねりながら初心に帰っての検討から始まった。

まず、課題となったのは5年の空白を挟んでいったい何人ぐらい来てくれるのかという不安であった。最終的には、幹事の根拠のない樂觀で、今までの経験に願望を上乗せして50名を想定した。毎回恒例のアトラクションについては、久々のためもあり発案と準備活動に難儀したが、以前好評だった「一言コーナー」と「うたごえタイム」

72期東京さつき会は5年ぶりに大集合!

さあ次は、函館で会おう

10月24日(木) 72期全体同期会開催!!

函中72期東京同期会(東京さつき会)

(広告協賛) 渡部総合法律事務所 新宿御苑前 電話03-3355-5415(代)



★ 2024年5月東京さつき会スナップ写真★



とで進めようということになり、高校時代のバンド再編成へ北海道在住等メンバーへの呼びかけ等々、音楽系担当の笹川幹事が一汗かくこととなった。

さて、おそろおそろの蓋を開けてみれば当日56名の参加となつて思わぬ大盛況。卒業以来半世紀余を経て懐かしい面々がそろ各地からはせ参じた。

男性34名対女性22名と、当時の72期生の在校生比率、男性7対女性3からみて、女性陣の圧倒的な参加を得て和やか・賑やかな集まりとなった。

5年ぶりの開催、中には今回半世紀ぶりの初参加をした同期生もいて、会場は懐かしさの集合体となつてあちこちから再会を喜ぶ声が交錯するなか、渡部世話人会長の挨拶と、判明している物故者51名への黙祷が始まり、「一言コーナー」では、突

如指名された方々が当惑しながらも話す懐かしい声と新鮮な近況に会場は大いに盛り上がった。また、函館での地域活性化への取り組みや、各自の文化芸術芸能分野での取り組みや参加への呼びかけを聞いたりしたこと、も、「みんなの齢を経てもしっかりと頑張っているなあ」という印象を共有できたかもしれない。函館から馳せ参加した井上君からは、今年10月函館にて開催予定準備進行中の全体同期会「函中72期会(卒業55周年記念)」の案内と進捗状況が披露され、参加の機運を大いに織り上げた。



「うたごえタイム」では、時を越えてメンバーが再結集した「New MG4」の演奏に合せて懐かしい60、70年代の唄を合唱し、最後の曲は再会を期して「今日の日はさようなら」で締められたのもよい思い出になったのではないだろうか。

さて、時間もあつという間に過ぎ、お開きの時間となり、最後は盛大な三本締めで来年以降の元気な再会を期して散会した。

さらに有志30余名は二次会にて名残を惜しみ、日本橋の夜は暮れた。

か と
弁護士 **加戸茂樹** (85期)

(第二東京弁護士会所属)

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-8-3 四谷三信ビル5階
四谷東法律事務所

電話 **03(5366)1601** FAX **03(5366)1602**

同窓の方は、初回法律相談料(1時間分)を無料とさせていただきます。

行政書士白川事務所

代表 **白川正広** (76期)

mail : shirakawamasa@ybb.ne.jp
https://shirakawamasagyosei.com/

京都大人の修学旅行記
第81期 高橋 範夫



深い青と水辺の鮮やかな緑、晴れ渡った空の下、平安初期、嵯峨天皇が造ったという大覚寺大沢池で平安を味わった。最近大河ドラマ「光る君へ」を見ていたら、大覚寺の映像が流れ、この旅行を思い出し、感慨にふけるのであった。私がその藍色とも紺色ともつかぬ境内の池を「この目で」見たのは、2023年12月9日のことであつた・・・ということ、81期の同期生14名が参加した「第3回大人の修学旅行」のご報告をいたします。

京都在住の寺地幹事の元、前日の夕刻、ハーヴェストクラブ鷹峯に集合、さつそくの宴会となり同期生と旧交を温めました。宴会後も男子6人部屋に全員が集まり二次会。深夜まで飲みました。6人部屋で4人は布団を並べ、朝まで枕投げしました(というのは冗談)ですが、そんな修学旅行スタイルは得難い経験でした。

この宿で一番感動したのは鷹峯、花札で坊主として描かれているはげ山が部屋窓から見えていたこと、さすが京都ですね。翌朝、チャーターしたバスで冒頭の大覚寺、相国寺、醍醐寺、東寺を訪れました。この日の昼食は、1回目、2回目同様、恒例の松ヶ崎和食処「ほく泉 大さこ」さんで。京都的な華やかなメニューに大満足。昼食後、醍醐寺に移動。バスの運転手さんがアクセル全開で飛ばすも、なかなか着かない。京都盆地を北から南に横断する行程で京都の広さを実感しました。醍醐寺は三宝院の庭園がよかった。最後に東寺。東寺の五重塔は迫力が違いました。

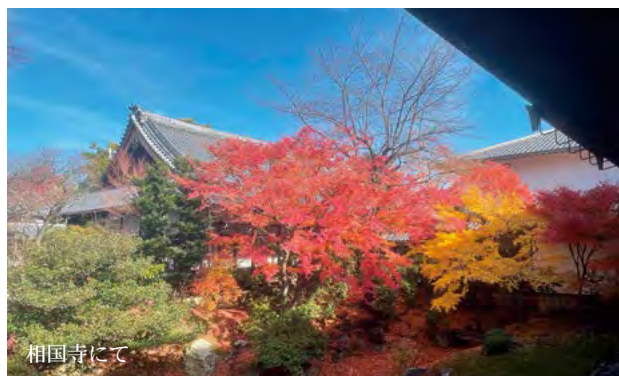


山や大森浜の情景が浮かんでくるのでした。
81期による京都ツアー、第1回目が開催されたのは2013年11月30日(月)のこと。毎回参加されている明石市の利一さんによると、東京支部の幹事期を機に、東京在住の同期生が集まっていると聞き、関西在住の同期生も集まることになったのがきっかけとのこと。京都在住の寺地さんのアテンドにより大人気のツアーになった。第2回は2017年7月29日、30日に開催されました。3回かかさず

参加している関口さんによると、「同窓会×京都×在京数十年のほぼ京都人の案内人。こんな鉄壁な修学旅行、日本中どこをみてもないぞ」とのこと。

最後にこのツアーの企画から手配、清算にいたるまであらゆる面倒を一手に担ってきた寺地さんに締めていただきます。

「思えば、初めてこのツアーを企画したのが、2013年の12月始めでしたから、それから数えて丸10年。我々もよく生きながらえたものだ感慨もひとしおです。10年前と同じお店にも行くことができたし、お店もコロナをよく生き延びた・・・。ただ、初回に続き、2017年の真夏に行った小規模な京都ツアーにも参加してくれた、髭本さんが亡くなっているのがとても寂しく思われます(彼女は小学校の同級生です)。ご冥福をお祈り申し上げます。このようなツアーを楽しめるのも、心身ともに健康であつてこそ(足腰も立たねば歩かれぬ)。また、10年後?に企画しますので、そのときまで、皆さん元気でお願いします」
このような旅行を開催している81期も今年で64歳になります。が、まだまだ元気でやっております。





随想

九死に一生を得る

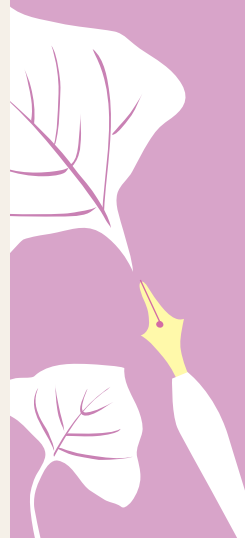
第70期 石黒 秀喜

2024年の幕開けは、元旦に能登半島地震が発生し、翌2日には羽田空港の滑走路で、地震の被災地に救援物資を運ぶ任務にあたっていた海上保安庁の航空機と新千歳空港から到着したJAL機が衝突、双方が炎上し、海上保安庁の職員5人が死

亡するという悲惨なスタートとなりました。実は私たち家族は偶然、そのJAL機に乗り合わせておりました。

札幌の義妹宅で年末年始を過ごし、東京に戻るため千歳発のJAL516便に搭乗しました。私と妻、娘、孫たち5人の座席は最後部に近い59列目のA～Eで、後方左側の非常口の近くでした。新千歳空港を離陸した後、アナウンスで、関東地方上空は気流が不安定なため17時10分ごろから機体が揺れるとの予告がありました。搭乗前に飲んだビールが効いたのか1時間ほど眠っておりましたが、予告通り機体の上下の揺れが激しくなってきたので目が覚めました。その後、着陸態勢に入る旨のアナウンスがあり、グンと高度を下げ、車輪を出す「ギューン」という音が聞こえ、そろそろ接地すると思った瞬間、突如大きな「ドーン」という衝撃を受け、バウンドしながら激しい横揺れと炎を伴う走行後に停止しました。そ

の直後、CAの「落ち着いてください!」「大丈夫です!」という声が何度も聞こえ、機内は煙で充満し、異臭が漂い始めました。次にCAの「姿勢を低くして!」という声が聞こえ、煙を吸い込まないように身を屈め、脱出に備えてスマホや貴重品の入っている足元のポシェットを身に付けました。CAの「非常口が開かない」という声も聞こえ、CAもパニック状態になり、避難の誘導アナウンスもなく、自分たちはこのまま機内で焼け焦げるのかと一瞬悲観的な思いが頭を駆け巡りました。自分はずくまづ、煙を避けるため下を向いていたので気がつきませんでした。妻から「降りるよ!」と強く声をかけられ、ようやく非常口が開き、脱出が始まっていくのを知りました。急勾配の脱出スライドを飛び降りたら、孫たちが前を歩いていくのが目に入り、本当に安堵しました。しかし、私が降りるときには、まだ機内には相当数の



乗客が残っていたのに、私の後には数人しか降りてこなかった。機内に逃げ遅れた乗客がいるうちに火が回ってしまったのではないかと暗澹たる気持ちになりました。しばらくしてからスマホニュースで、幸いにも乗員乗客全員379名の命が無事であったことを知り、心の負担が軽くなりました。

孫たちが元旦に札幌円山動物園の売店で購入したぬいぐるみ、数点も燃えてしまいました。後日その売店に事情を伝え、再購入の照会をしたところ、その売店の粋な計らいで燃えたぬいぐるみは無償で送るとの連絡をいただきました。届いた宅配便には売店で購入したぬいぐるみに加え、いろいろなお見舞いグッズが入っていて、強い恐怖とショックで落ち込んでいた孫たちにとって、売店のお心遣いは何よりの癒しになりました。孫たちの心に人の親切の暖かさが刻み込まれたことは、貴重なプラス体験になると思います。最後になりますが、亡くなられた海上保安庁の方々、心からお悔やみ申し上げます。



なるほど!

中部高校

the TUBU



放送局が 全国大会出場!



6月11日～14日に千歳市で開催された「第71回NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会（北海道高等学校文化連盟第48回全道高等学校放送発表大会を兼ねて開催）」において、創作テレビドラマ部門で最優秀賞を受賞するなど計5部門で入賞し、東京で開催される全国大会出場を決めました。また、NHK総合では、旭川東高校と同点で最優秀の榮譽に輝きました。放送局は、これまでも全国大会で輝かしい成績を収めてきており、より一層の活躍を期待しております。

今回は、全国大会のための作品を提出するべ切日という大変多忙な日に取材を受けて頂きました（部員の皆様、ありがとうございます）。ちなみに、現在の部員は、3年生2名、2年生2名の計4名です。

●今回の作品はどのようなものでしょうか？

創作テレビドラマ部門（作品名：あやのSDカード）は、学校生活での気づき、高校という場の中で見出したものを素材としています。学校生活の中で、「自分の周りを見る」「自分の弱みを受け入れる」「相手のことも認める」ことをメッセージとして伝える内容となっています。テレビドキュメント部門（作

品名：どう考えたって重すぎです!）は、主人公の「うれし」「楽しい」といった感情と同じ思いをしている人がいたら、うれしいだろうと考えながら作品を作っていました。

ラジオドキュメント部門（作品名：かわいくなりた）は、LGBTをテーマにしました。一人に焦点を当てたヒューマンドキュメントです。インタビュー形式で話を進めていき、インタビュを重ねることで、互いの信頼関係とともに、話の回し方を徐々に覚えていき、作品として仕上げていくことができました。

●制作時の難しさや工夫はどのようなところでしたか？

テレビドキュメントは、8分以内という制約があるので、起承転結を各2分程度に割り振り、作っていました。ただ、撮影したものを編集していくとどうしても8分を超えてしまいがちなので、絶対に削ってはいけないナレーションやテロップは残り、8分に収まるように工夫しました。映像でしか伝えられないものが視聴者にしっかりと伝わるようにしました。ラジオドキュメントは、題材を決めるのに時間を要しました。

ドキュメントという性格上、不満に思うものや話題性などが重視されますが、学校生活と絡めることが結構難しかったです。また、ラジオはテレビと違い映像がないため、なるべく現場音を使って分かってもらうようにするとところで頑張りました。こちらも7分以内という制約があり盛り込みすぎるとオーバーしてしまうため、簡潔に伝えることに注意を払いました。

●普段、どのような練習をしていますか？

発声や呼吸などは、YouTubeにアップされている発声練習を参考にしています。講師に来ていただくようなことはしていません。

●今度どのような番組を制作していこうと思っていますか？

毎回、番組を制作する際には、何を作りたいというよりは、「これは!」「あれは!」とかいうことでテーマが浮かぶことが多いです。自分から何かを制作したいというよりはむしろ、テーマとの出会いを待っている感じです。

7月23日から東京で行われた全国大会で、「あやのSDカード」と「かわいくなりた」がともに優良賞を獲得しました。おめでとうございます!



女子バレーボールチーム 30年ぶりの全道大会進出!

「令和6年度北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会」において、30年ぶりに全道大会に進出した女子バレーボールチームにインタビューを行いました。

6月12日に行われた全道大会の初戦（釧路北陽高校戦）はフルセットまでもつれ込みましたが惜敗（17・25、25・15、18・25）し、次戦の東海大学付属札幌高校にも惜敗（16・25、19・25）、残念ながら予選で姿を消してしまいました。

お伺いした6月21日、全道大会を終えた3年生は部活最後の日でした。3年生6名、2年生6名、1年生7名が、この卒業した126期の夢であった全道大会を目指し、平日は3時間、土日は4時間も練習に励んだ先に出場権を勝ち取った感想や、今後を目指す2年生、1年生の意気込みをお聞きしました（部員の皆様、ご協力ありがとうございました（ございました！））。

● **どんなことが全道大会に進出できた要因になったのでしょうか？**

今年卒業した126期の先輩方が目指していた、全道大会への進出を実現できなかったこと

から、先輩方の夢を叶えることを目標としていたことが今年の躍進の原動力となったと思います。（3年生）

今の部員はほとんどがバレーボール経験者で、部員一人一人のレベルがとても高かったことに加え、監督の指導力が高く、その結果、試合に向けて考える力をチーム全体で発揮できたことも大きかったと思います。（3年生）

去年は、全員一丸となって頑張ったものの、あと一息思いが届かず、悔し涙を流しました。全道大会を勝ち取りたいと、たくさんミーティングを行い、部員とディスカッションをしてきたことが良い結果につながったのだと思います。学年に関係なく、部員全体の仲が良いので、主将としてチーム全体をまとめることで苦労したことはありませんでした。ただ、個人のスキルアップの目標を持つ一方で、全道大会進出という目標も個人のスキルアップの陰に隠れないようにすることにはとても気を配りました。（3年生 主将）

● **全道大会を振り返ってもらえますか？**

会場の独特の雰囲気を楽しみました。初戦は緊張している部

分が多かったですが、徐々に慣れて2セット目は取れることができたのは良かったです。（3年生）

結果としては残念でしたが、2試合ともチームの良さを出すことはできたと感じています。（3年生 主将）

● **2年生、1年生は全道大会でどのようなことを感じましたか？**

全道大会を通じて、来年度の自分たちが目指すべき次の目標が明確になりました。

今年は、しっかりと戦えたなあと感じました。来年はさらに頑張っていこうと思います。

● **今日は3年生が参加する最後のミーティングとお聞きしましたが、後輩に何を伝えようと思いますか？**

30年間超えることができなかった、全道大会への壁を超えることができたので、次の目標は全道大会で勝ち抜いていくことだと思っています。後輩たちには、是非実現して欲しいです。（3年生 主将）

■ **インタビュー**

二記事とも 松永 久（81期）

第5回

新人歓迎会

もんじゃ 大江戸坂井 (月島)

日時：2024年7月7日(日) 12時～14時

会費：学生 1000 円、学生以外は 5000 円

開会挨拶・乾杯：白川支部長 司会進行：89 期 桐山

閉会挨拶：松永

68 期 白崎淳一郎	89 期 汐見和人 齋藤雅宏
69 期 梅田やよい	長尾真人 桐山(塚原)啓子
76 期 白川 正広	90 期 鹿野祥子
78 期 岡部あさ子	96 期 今田光信
81 期 松永 久 渡邊由美子	97 期 野村武史
87 期 吉田 玄 荒谷修司	105 期 小林秀輝
池田智之 海老名徹	126 期 金津小花 白木菜々美
澤口亜樹 末永健	福井花梨 吉元麟菜
鈴木泰仁 中谷孝志	藤枝佳乃 明田康生
松本篤史 山田篤志	後木拓生 新田悠真
渡邊岳夫	松浦倫太郎 五十嵐 健

(順不同・敬称略 合計 35 名)



昨年4年ぶりに開催した新人歓迎会は、会場を月島に移し、「もんじゃ 大江戸坂井」で開催しました。今年の新人(126期)が10名、お迎えするメンバーは68期から105期までの25名が参加し、特に87期は、東京白楊だよりの編集長である荒谷さんをはじめ10名もの参加がありました。

新人歓迎会は、いつもであれば、支部長のご挨拶と乾杯から始まるのですが、もんじゃを焼いた経験者がいなかったことから(もんじゃ焼きのお店でアルバイトをしているけど焼いた経験がない126期がいることが後に判明しましたが時すでに遅く)、店長がもんじゃ焼きの指南をショースタイルで実演するところから始まるという、過去にないパターンで幕が開きました。ちなみに店長は、長万部生まれということが後で分かり、我々が函館出身ということをお話すると、よりテンションアップされていました。

もんじゃ焼きの良さは、みんなで一緒に焼くという共同作業ができること、できあがる途中でいろいろな会話をすることができることです。当日の進行・プレゼントの購入など、八面六臂の活躍をされた、汐見さん、桐山さん、齋藤さん、長尾さん、そして当日はご欠席でしたが鈴木さんを中心とした89期の皆様が、126期とお迎えするメンバーの配席を工夫されていたこともあり、会の初めから、どのテーブルも和気あいあいとした雰囲気の中で、次々と焼けるもんじゃを頬張りながら、会話が弾んでいました。

新人対象のじゃんけん大会では、東京ディズニーランドの商品券をはじめとした、89期厳選の商品をゲットされていました。

最後に、私から、今年の新人歓迎会の開催に際して、清水校長先生、弦木学年主任(お二人とも中部の卒業生です!)に多大なご協力を頂いたことへの感謝、そして清水校長先生から頂いた、「126期の皆様は来年卒業する127期の皆様の歓迎役として活躍してくださいね」というメッセージをお伝えし、2時間の会は終了しました。

126期の皆様は、函館では体感したことがない猛暑を乗り越え、当日お越しいただき126期をお迎えいただいた皆様は健康に十分留意され、11月2日(土)午後1時より開催する第48回東京支部親睦大会でお会いできることを楽しみにしています。今日いらした126期の皆様は、本日来られなかった同期にも是非お声がけください。心よりお待ちしております。

松永 久(81期)記

会員短信

令和5年8月・令和6年7月
迄の会費の払込票と返信はが
きのメッセージから



●大澤 晴子（S28年卒55期）

とても立派な「白楊ヶ丘だより」をお送りいただき、うれしく感謝申し上げます。皆さまのご健康を祈ります。

●原口 久江（S29年卒56期）

足が不自由です。やさしい娘のお世話になっていきます。元気な頃がなつかしいです。

●野村（奥村）敦子（S30年卒57期）

なつかしい函館の様子を拝見しまして嬉しく存じます。高齢になりコロナ時代で外出も遠出はして居りません。元気で自立生活をして居ります。

●吉田 精吾（S30年卒57期）

同期の仲間が徐々に逝ってしまうのは淋しい限りです。それでも気の合うグループと年に1〜2回集まって楽しく会食するのが良い刺激になっています。

●及川 守（S32年卒59期）

スイスのローザンヌに留学している孫が下宿しているホストが函中卒業生で、お世話になっていきます。日常では週2回デイサービスに通っています。函館山の軍の要塞は登る都度見ているのですが、今でも有るのですか？

●桶 直義（S32年卒59期）

お世話様です。当日は他用あり欠席させて頂きますが、盛会をお祈り致します。

●小林（渋谷）綾子（S32年卒59期）

いつもご連絡ありがとうございます。あつという間に85才という高齢になって・・・自分のことは自分でモットーに過ごしております。盛会をお祈りいたします。

●廣岡 武史朗（S32年卒59期）

いつもお世話になっております。今年3月にシニアマンションに転居しました。元気です。

●古川（大島）セツ（S32年卒59期）

真船昭さんが万年幹事をして下さいありがとうございます。ただ毎年友人達が少くなっております。

●飯田 幸平（S33年卒60期）

コロナが終息し、支部の活動に期待しています。同期会（三三会）は東京で開催。再会を楽しみにしています。

●伊藤（上野）紀子（S33年卒60期）

白楊だより、楽しみにしております。函館に住めた幸せ、かけがえのない宝物です。

●内藤 尚（S33年卒60期）

東京白楊だより（第46号）では、記事を載せていただき有難うござ

いました。たいへんお世話になりました。今年も三三会（同期会）で全国の仲間たちに会えるのを楽しみにしています。

●加藤 紀興（S34年卒61期）

ようやく面前開催でき、良かったです。皆様のご努力に感謝致します。

●菊池 紀邦（S34年卒61期）

コロナで出席を控えておりましたが、高齢ではありますがこれからも参加します。

●斎藤 慎一（S34年卒61期）

東京白楊だより46号「なるほど！TheTUBU」の記事中に、全国に「中部」の名前がつく高校は？・・・全部で5校とありましたが、現在での公立の高校は、函館中部高校と富山中部高校の2校だけのようです。因みに私の妻は富山中部高校出身です。

●佐藤 穎（S34年卒61期）

今年こそはと張り切っております。残念ながら欠席となりましたが、書道、写真、俳句と趣味を楽しみ元気で過ごしております。ご盛会を祈念致します。

●打田 恭子（S35年卒62期）

いつもご連絡ありがとうございます。GOTO 函館山。若い時何度も登って美しい花々に魅せられた事を懐かしく思い出しています。

●鎌形（野村）寛子（S35年卒62期）

白楊だより 楽しく拝見させて頂いております。編集委員の方々いつも

ありがとうございます。しばらく帰函しておりませんが、最近の情報は嬉しいです。これからも楽しい紙面を期待しております。

●山 道大（S36年卒63期）

今、私があるのは中部高校があつてのこと。その同窓の間にいることに感謝です。

●佐々木 和夫（S36年卒63期）

年令が増して来たため外出がおっくうになって来ました。皆さんに会えないのは残念ですがやむを得ませんです。

●大原 淳一（S37年卒64期）

私達64期（S37年卒）最後の同期会を、本年6月19日函館にて行いました。皆様元気でびっくりしました。東京支部の増々のご発展を祈念いたしております。

●佐々木 京子（S37年卒64期）

白楊だより有難うございます。6月19日に函館でラスト同期会があり、参加者50名。元気に集まりました。

●佐藤 宣践（S37年卒64期）

幹事の皆様 いつもご苦労様です。残念ながら親睦会には柔道行事と重なり、参加できませんが、皆様によりしく申してください。東京白楊だより、楽しく拝読しました。感謝。

●越前 彬（S38年卒65期）

この猛暑の中、皆様如何お過ごしですか。私は朝4時頃起きて太極拳をしています。9月30日函中同窓会に参加します。60年ぶりです。お互いに顔が分かるかどうか心配です。熱中症に気を付けてください！

●村本 長穂（S38年卒65期）

東京白楊だより、いつもありがとうございます。卒業生の方々の御活躍をたのしくうれしく思っております。

●広瀬（坪井）貞子（S40年卒67期）

「白楊だより」いつも懐しく拝見しています。67期「志丸会」では今年（R5）10月に大沼公園ホテルにて喜寿のお祝い会を開催します。皆さんとお会い出来ること今から楽しみにしています。

●山崎 徹（S40年卒67期）

お世話になりありがとうございます。46号の函館山、山野草、野鳥、人との出会い良かったです。

●稲田（丸岡）悦子（S41年卒68期）

GOTO 函館山に魅入りました。心の糧になります。佐柳様に感謝いたします。

●木村 脩司（S41年卒68期）

4年ぶりの対面での親睦会、よろこばしいことです。この間にも会員の皆さまにも様々なことがあったことでしょう。先日、大学のOB会を開催して実感しました。健康でいることの大切さを。

●重松 健二（S41年卒68期）

中部OBの兄が満86歳でまだまだ元気に人生を謳歌していますよ！木村君、谷口君、3人でいつかは出席しよう！

23 記事・広告・写真は事務局 kaihou@kanchu.tokyo まで！

●白崎 淳一郎（S41年卒68期）
10月16日に三つよいい会を6人で行う予定です。

●高橋 弘昭（S41年卒68期）
地方公務員を10年勤め、すぐ居酒屋をはじめ、45年間で店を開けました。これを機に幸手市に移住し、のんびりと過ごす日々です。皆様のご健勝をお祈りしております。

●内藤 和明（S41年卒68期）
体調面から「親睦大会」欠席します。「コロナ感染の中、同期の方々との直接面談が出来ませんでした。来年からの再会を楽しみにしております。」

●三浦 章三郎（S41年卒68期）
親睦大会の案内ありがとございます。久しぶりに函館に行きました。函館駅前の大通りの少なさと夜景の明かりの暗さに寂しさを感じました。大泉新市長の手腕に期待します。

●阿部 英司（S42年卒69期）
（株）英建でまだ勤務しています。（株）英建・渋谷のホームページを閲覧下さい。

●安藤（岩崎）秋子（S42年卒69期）
東京白楊だより、いつも楽しく読ませて頂いています。

●佐藤 正行（S42年卒69期）
弱視者のための拡大写本作りのボランティア活動をしております。盛会をお祈りいたします。

●大塚 幸枝（S43年卒70期）
いつも連絡有難うございます。膝痛・腰痛のため、外出には不安があります。

あります。

●佐藤 和明（S43年卒70期）
残念ですがバッティングしてしまい、欠席させていただきます。

●芹川（悦子）坂本（S43年卒70期）
いつもお知らせありがとございます。2月にケガをしまして、仕事には復帰しましたが、今だに体調が万全ではありません。申し訳ありませんが今回も欠席させていただきます。

●高橋 裕司（S43年卒70期）
11月4日は町会の秋まつりがあり、役員をしておりますので出席できません。ご盛会をお祈り申し上げます。

●荒井 正博（S44年卒71期）
いつも広報を拝読し、懐かしんでいます。中部は「文武両道」をモットーに高校時代を過ごしてましたが、今思えば悔いの残る人生を送ってきたようです。後輩が野球に進学に頑張っている姿に喜んでいきます。その頃に戻りたいです。よろしく。

●男谷（佐藤）洋子（S44年卒71期）
表紙の写真、それと函館山の写真と手記がとてもよかったです。「コンボをほろ」懐かしくもやられる方のつらさも思いやられます。がんばってね！

●川村 哲雄（S44年卒71期）
「アルカディア市ヶ谷」での4年ぶりの対面での親睦大会開催に嬉しく思います。楽しみに参加させて頂きます。

●中村 徳三（S44年卒71期）
6月の四年ぶりの同期会に出席できず残念でした。同期会の中心的存在の加納元雄君の恩ぶ会も兼ねていたので、一層その思いが募りました。しかし「同期会だより」の成田君の臨場感溢れるレポートを読み、軽快な文章に引き込まれ、出席している気分になりました。ありがと！

●古川 哲朗（S44年卒71期）
久しぶりの対面での同窓会を楽しみにしています。

●本吉 英紀（S44年卒71期）
幹事の皆様、いつもご苦勞様です。きれいな「東京白楊だより」ありがとございます。

●神谷 亮一（S45年卒72期）
幹事様お疲れ様です。現在岩手県盛岡市在住です。東京へ出張のある時は東京支部会にも出てみたいです。

●笹川 浩史（S45年卒72期）
神戸在住で、残念ながら今年もタッピングが悪く上京の機会が持てません。盛会を祈念します。

●谷口 雅典（S45年卒72期）
支部会運営の皆様へ、只々感謝!!

●若林 靖史（S45年卒72期）
やと娘が結婚し、息子が就職しました。バトンタッチできたようです。

●菅原 聡（S46年卒73期）
同窓会の段取り、白楊だよりの配布、本当に御苦勞様です。毎回楽しみにしております。46号では同期

の山田君の近況楽しく読みました。有難うございます。

●五十嵐 力（S47年卒74期）
70才になりました。まだ元気で日々働いています。毎回同窓会の開催ごくろう様です。開催日が金曜日であれば出席できるのですが、何年前か、機関誌で洞爺丸台風の高難事故を特集されました。圧巻でした。大切に保存しております。

●逢見 直人（S47年卒74期）
白楊だよりをなつかしく拝読しております。

●小林 隆康（S47年卒74期）
2023年9月13日に函館五島軒で「古希の同期会」が開催され、75名の参加がありました。

●中澤 裕（S47年卒74期）
横須賀在住です。東京支部に加えていただきありがとございます。S53年NTT研究所入社。60才で未来ねつと研究所にて退職しました。伝送部門にてデジタル網の研究実用化を担当しました。よろしくお願ひ致します。

●阿部 明夫（S48年卒75期）
おしゃれなりーフレットありがとございます。宮崎揚弘著『函館の大火』を読みました。災禍を身近に感じるとともに、古の栄華にも触れ、思う所の多い一冊でした。オススメです。五稜郭の図書館にもあります。よろしかったらどうぞ。

●掛川（黒田）祐子（S48年卒75期）
素敵な会報ありがとございました。今回特に目を惹いたのは「GOTO函館山」の記事でした。函館山がこんなにも動植物にあふれた豊かな山だったとは全く知りませんでした。大好きなシマエナガまでいた。はー感激しました。

●金丸 洋一（S48年卒75期）
4年ぶりの対面での開催で、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

●桑原 洋子（S48年卒75期）
「人生七十古来稀なり」今はのんびりゆつくり過しています。

●千島（富原）秀子（S48年卒75期）
声はすれど姿は見えずの野鳥。撮影にはご苦勞がありがとございました。可愛いお写真ありがとございました。

●宮下 知子（S48年卒75期）
シャノンとロシア歌謡を歌う歌手として（芸名タマラ）毎月新宿のライブハウスで定例ライブを主催しています。御連絡いただければ御案内いたします。

●瓜生 寿美子（S49年卒76期）
いつもありがとございます。「GOTO函館山」、とてもよかったです。

●近藤 弘（S49年卒76期）
懇親会のご盛会を心から祈念しています。

- 高崎 美也子（S49年卒76期）
白楊だより作成送付、ごくろうさまでした。コロナの3年はいったい何だったのでしょうか。戦争、値上げ、汚水の排水と、何やら「よい世界」にはまだまだ遠いが、死ぬまで元気でした。
- 高山（石井）悦子（S49年卒76期）
毎年すてきな「会報」ありがとうございます。
- 松井 直人（S49年卒76期）
同窓会活動、親睦会の準備等、御苦勞様でございます。健康で過ごせていることに感謝して生きる毎日です。
- 山森 一（S49年卒76期）
いつも案内ありがとうございます。今年の東京支部大会は母の93歳の誕生日と重なってしまい残念ですが欠席です。実家北見に兄弟集ってお祝います。来年は同期76期の卒50周年で函館集合です！これもまた楽しみです。
- 上田（吉川）裕子（S51年卒78期）
「東京白楊だより46号」で同期の島津路郎さんの訃報に接し、心よりお悔やみ申し上げます。2019年11月の白楊ヶ丘同窓会（東京）でお会いした時に、闘病中ながらも生きることに向き姿勢に頭が下がりました。
- 大久保 博生（S51年卒78期）
都合により欠席します。皆様に宜しくお伝え下さい。私は、孫3人のいじじいになりました！
- 木村 明弘（S51年卒78期）
3月末をもって公務員再任用も終了。4月からフレッシュな会社員として再デビュー？新鮮な気持ちで勤務を続けております。
- 下村 次郎（S51年卒78期）
理事ならびに幹事の皆様、いつもありがとうございます。会報の中に同期生の姿や文章を見つけるのが楽しみです。
- 田中（佐藤）雅子（S52年卒79期）
ネクスト・ステージにてパレルワーク（複業）を楽しんでいます。孫たちも8才と5才になりました。
- 山本 恭之（S52年卒79期）
4年ぶりの対面開催、おめでとうございます。
- 多田 邦夫（S52年卒79期）
白楊だよりありがとうございます。ご盛会をお祈りします。
- 佐柳 由佳（S54年卒81期）
白楊だよりに駄文、失礼いたしました。忘れてしまいがちな自分のコロナ禍の生活の整理ができました。編集のみなさま、ありがとうございます。
- 阿曾 美子（S55年卒82期）
だよりは印刷も送料も経費がかかる。将来的にはWeb（HP）に記事を載せる。利用で良いのでは？
- 阿部 晃子（S55年卒82期）
いつもありがとうございます。暑い中お疲れさまです。
- 佐藤 紅（S57年卒84期）
いつもありがとうございます。
- 竹埜 正文（S57年卒84期）
いつもご案内ありがとうございます。
- 安藤 恭子（S58年卒85期）
東京白楊だより、いつもご送付ありがとうございます。来年は60才の節目の年。来年こそ是非参加させて頂きたいと思っております。
- 幡谷（大久保）恵（S58年卒85期）
白楊だより、ありがとうございます。函館山の自然を改めて知ることができました。充実した内容にいつも感謝しております。
- 柳川 清尊（S58年卒85期）
久しぶりの対面での同窓会開催、とても楽しみにしております。主催の皆様におかれましては、お骨折られ誠にありがとうございます。
- 酒井 耕一（S59年卒86期）
23年5月に函館に帰省しました。ハリストス正教会の改修が終わり、港には海外から旅客クルーズ船が着くようになり、坂道から見る景色は美しさを増しています。高校時代に港や坂道で過ごした時が宝物であると感じています。
- 川越 歌澄（H2年卒92期）
ご案内ありがとうございます。11月は毎年函館でコンサートに参加していて、当日は残念ながら帰省中です。ご盛会を御祈り申し上げます。幹事の皆さま、頑張ってください！
- 萩野 真輔（H4年卒94期）
親睦大会の成功と皆様の御健康、御長寿、ご活躍を御祈念致します。

●今田 光信（H6年卒96期）
久しぶりの大会実施ありがとうございます。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

●狩野 修吾（H30年卒120期）
東京支部の発展を祈念いたします。



 函館の写真募集中!	 募集! 自薦他薦問わず
随想 募集します 伝えたいことなど 1000字程度で お送りください	1コマ高24×幅95mm 5000円 2コマ10000円 4コマ20000円 広告募集
お問合せ・お申込み kaihou@kanchu.tokyo	

晴天に恵まれ東京臥牛会ゴルフコンペ開催

2024年4月12日（金）、茨城県の「JGM やさと石岡ゴルフ倶楽部」にて、コロナ禍で中断しておりました、他校同窓会との「第6回東京臥牛会ゴルフコンペ」が開催されました。当同窓会からは72期の佐藤禎子さん、松本浩さんが参加されました（総参加者は15名）。結果は、幹事の東高校が1位から3位とニアピン賞を独占。実質バスコの佐藤さんは飛び賞、松本さんは当日賞を獲得。交流第一の会ならではの受賞です。来年は西高校が、再来年は我が中部高校が幹事の予定です。より多くのご参加をお待ちしております。



年会費の納入をお願いいたします

白楊ヶ丘同窓会東京支部は、会員の皆様からお寄せいただく年会費やご寄付により運営されております。昨年度も、多数の皆様にご支援・ご協力いただきましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

年会費は3000円となっており、今年度は65期以降の期の方にお支払いをお願いしております。64期より上の期の皆様は年会費は免除とさせていただきます、ご寄付をお願いしております。

しかしながら、昨年度は年会費収入がコロナ禍以前の2019年度並みには回復していないため、支部活動は必要最小限にとどめ経費節減に努めたものの、諸経費高騰等や親睦大会の開催による経費の増加により、50万円近い赤字の収支となりました。

今年度は、昨年度の反省を生かして運営に取り組んでおりますが、支部活動の柱の一つである「東京白楊だより」の郵送費は、今後大きく値上がりすることが予定されており、支部活動の維持のためには、会員の皆様からお寄せいただく年会費やご寄付がますます重要になってまいります。このため、引き続き会員皆様のご支援・ご協力を賜りたく、年会費の納入やご寄付をお願い申し上げます。

(総務・会計担当 81期 渡邊由美子)

なお、年会費は、以下の方法で納入いただくことができます。

① 会報に同封の払込取扱票（払込料金東京支部負担）を利用する場合

※2022年1月より現金でのお支払いには手数料110円が必要となりましたのでご注意ください

(詳細はゆうちょ銀行までお問い合わせください)。

※お送りした払込票を紛失されるなどしてご自身で払込票を記入される場合、

加入者名は「白楊ヶ丘同窓会東京支部」、口座記号番号は「00190-1-124291」です。



② 払込票を使用せず、ご送金いただく場合

郵便局まで出向く時間がない、便利なインターネットバンキングで送金したい等のお声をいただき、数年前よりゆうちょ銀行に加え以下の3行にも口座を開設し、ご利用いただいております。

(1) 銀行口座名称：「白楊ヶ丘同窓会東京支部」(4行とも)

みずほ銀行	溝ノ口支店	普通 2712051
三井住友銀行	鎌倉支店	普通 0202759
三菱UFJ銀行	用賀出張所	普通 0107761
ゆうちょ銀行	〇一九店	当座 0124291

(ゼロイチキョウ)

(2) 振込人氏名欄はスペースを空けずに、「期→卒年→氏名」の順で
ご記入ください。

例：81S54 ワタナベユミコ

(3) 振込手数料が必要な場合は、誠に恐れ入りますが、振込人様のご負担をお願いします。

※年会費を一定期間(何年とするかは検討中)お支払いいただけていない方には、2025年度以降「東京白楊だより」の送付を中断し、支部サイトからの閲覧のみとさせていただきます。年会費が免除の皆様(2025年度は65期より上の方)には、引き続き送付させていただきます。

※年会費は当年度のみの納入をお願いしており、会計システムの都合上、遡っての納入又は翌年度以降分としての前納はできません。過分に納入いただきました場合には、当年度の寄付金として収納させていただいております事をご了承ください。

※会計に関するお問い合わせは、総務・会計担当 81期渡邊由美子までお願いいたします。jimukyoku@kanchu.tokyo

事務局だより

1. 2023年度の活動報告

東京支部事務局では、評議員会報告に挙げた定例の企画のほか、白楊ヶ丘同窓会本部・各支部の総会、関係各校同窓会東京支部の親睦大会、東京臥牛会などの行事にも参加して外部団体との交流を深めました。また、数年前から行っている「若手同期会補助」のレポートが届きましたので、ご紹介させていただきます。

2. 2024年度の活動について

白楊ヶ丘同窓会東京支部は、4月23日に評議員会で2023年度の決算と2024年度の予算案のご承認をいただき、これにより2024年度の活動が始まりました。

7月7日(日)には、第5回新人歓迎会が開催され(詳細は22ページ)、「東京白楊だより47号」の発行を経て、11月2日(土)には第48回親睦大会を開催予定です。現在89期有志の皆様と事務局の担当スタッフとで準備を進めております。

3. 持続的な支部活動の実現に関するワーキンググループ(仮称)発足

少子化に伴い会員数が減少する中で、東京支部の持続的な活動を可能とするため、様々な視点から支部活動を検討するワーキンググループを発足しました。リーダーの岡部副支部長以下、若手理事と評議員の有志により構成されるもので、すでに2回のミーティング(オンライン)を開催しました。具体的には、①会報送付のあり方について(今年秋に予定されている郵便料金の大幅値上げへの対応)、②若手の参加(新人歓迎会に加えた取り組み)、③広告のあり方(会報以外での収入獲得の可能性)、④本部・支部等との連携などについて検討を行っており、年明けの理事会を経て、来年度の評議員会において成果をお知らせできるように今後も検討を重ねて参ります。

(81期 渡邊由美子 記)

2024 年度評議員会報告

日時：2024 年 4 月 23 日（火）18：45～19：30 出席者：20 名
場所：インテリジェントロビー・ルコ D2 会議室（新宿区湯場町）

2023 年度収支実績および 2024 年度予算（単位：円）

	2023 実績	2024 予算
収入	年会費収入	954,000
	大会費収入	640,000
	寄付金収入	279,000
	会報広告収入	60,000
	その他	7
	合計	1,933,007
支出	大会関連費用	1,218,509
	会報関連費用	770,963
	その他事業	63,447
	諸会議費	52,115
	通信運搬費	31,306
	旅費交通費	97,670
	その他運営費	186,330
	予備費	0
	合計	2,420,340
	差引収支残	-487,333
	次期繰越剰余金	4,187,406

< 2024 年度評議員会報告 >

2024 年度の評議員会も、昨年に引き続き対面で開催し、以下の（1）～（5）につき、すべて承認を頂いた。

（1）2023 年度事業報告

昨年に引き続き新人歓迎会を開催、125 期 8 名、66～99 期の 16 名で歓迎した。親睦大会は 4 年ぶりに対面で開催した。コロナの影響未だ大きく、87 名の参加にとどまった。東京白楊日より、24 ページでの発行となり、記事の内容に高い評価を頂いた。理事会は、2023 年度も対面での開催は最小限とし、大部分をオンライン会議形式で開催した。

（2）2023 年度収支決算報告

コロナの影響は続いたものの、親睦大会、会報の発行という東京支部の柱となる活動は実施できた。2022 年度を上回る 318 名の皆様にお振込みを頂き、寄付金は 39 名と多くの皆様から頂いたものの、親睦大会をはじめとした事業費の支出がかさみ、差引収支は 487,333 円の赤字となった。物価高騰の折、年会費収入の増加が見込まれるものの、依然として厳しい事業環境が続く見込みであり、引き続き収支改善に務めていく。なお、真船監事より監査の結果、収支決算書が正しいことを確認したとの報告を頂いた。

（3）2024 年度事業計画案

新人歓迎会、親睦大会は、昨年に引き続き対面での開催を予定。今年は、親睦大会会場からのライブ中継は行わず、会場の様子は写真、映像として収め、活用することを検討する。東京白楊日より、24 ページで発行する予定。なお、昨年度の赤字の分析と、今後の支部の活動のあり方（会報送付のあり方、若手の参加促進、広告のあり方等）を検討する。「持続的な支部活動の実現に関するワーキンググループ（仮称）」を発足することになった。

（4）2024 年度収支予算案

2023 年度の収入・支出額それぞれの実績ならびに、2024 年度の活動計画を踏まえ、年会費の増収と諸経費の節減を織り込み、収入支出とも 227 万円の予算とした。

（5）役員の選任及び異動の件

今年度は、改選期ではないため、役員の選任及び退任はないが、田口志保氏（83 期）が理事を退任された（評議員は継続）。なお、報告後の質疑応答の時間に「繰越資産が 4 百万円強あるが、幸いまだ残高があるうちに東京支部存続のため戦略的に遣って行くというようなこともあって良いと思う。」というご意見をいただいた。

松永 久（81 期）記

若手同期会補助レポート

11 月 4 日親睦大会の後、92 期同期会を開催しました。親睦大会参加者 14 名に大会には都合がつかなかった 5 名も新たに加わり、全部で 19 名になりました。人数が確定しなかったこともあり、事前に半蔵門にレンタルスペースを借りました。中で調理することでもでき、大勢で自宅飲みをしているような親近感のある楽しい会となりました。

（92 期 坪内君枝 記）



大いに盛り上がりました♪



会場のセッティング開始！

※若手同期会補助とは

幹事期以下の期で、同期会を催す場合、その人数にかかわらず 1 回行うごとに 1 万円の補助を年間 2 回まで行います。ただし、会報に開催結果を寄稿していただくことが条件となります。

ご寄付御礼（敬称略）

昨年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）は 39 名の方からご寄付を頂戴いたしました。ここにお名前を掲載し、御礼に代えさせていただきます。

45 期 宝田 穎一郎
48 期 山科 喜一
51 期 小野寺 吉彦
53 期 牧野 一彌
56 期 津田 恭平
57 期 水江 晋一
58 期 川崎 洋子

59 期 笠原 静雄、前波 翠子、及川 守、谷口 雄二郎、新田 正勝、広岡 武史朗
60 期 飯田 幸平、伊藤 紀子、白戸 寿男、田村 雅俊、所 明彦、水江 彰一、内藤 尚
61 期 加藤 紀興、米村 光子、斎藤 慎一
62 期 市丸 大平、鎌形 寛子、五野井 隆史、石田 公子
63 期 陰山 道大、川崎 英治、黒島 利毅
64 期 二宮 信子

68 期 三浦 章三郎
69 期 阿部 英司、梅田 五郎
70 期 石黒 秀喜
72 期 若林 靖史
77 期 佐藤 勉
78 期 垣坂 清
85 期 柳川 清尊

白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第48回親睦大会のご案内

Web 申込
専用フォーム



とき 2024年11月2日(土)13:00 開始(12:30 受付開始 15:30 終了予定)

ところ 東京グリーンパレス **参加費** 一般 10000 円 学生 1000 円

*会場費や飲食費等の高騰により、今回より一般の皆様参加費を改定させていただきます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

東京グリーンパレス ご案内

〒102-0084 東京都千代田区二番町2番地

TEL : 03-5210-4600 (代表) <https://www.tokyogp.com/>



ACCESS

- ・東京メトロ有楽町線麹町駅(5番出口)徒歩1分
- ・東京メトロ半蔵門線半蔵門駅(5番出口)徒歩5分
- ・JRまたは都営地下鉄新宿線東京メトロ南北線市ヶ谷駅 徒歩7分
- ・JRまたは東京メトロ南北線四ツ谷駅(麹町口) 徒歩7分

白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様、今年の親睦大会は、皇居近く千代田区二番町に佇むホテル「東京グリーンパレス」にて開催いたします。昨年は、新型コロナ感染対策のため参加人数を制限させていただきましたが、今年は5年ぶりに「人数制限なし」で行います！

なお、今年の親睦大会の企画は、諸事情により89期有志の皆様と理事会メンバーが担当いたします。限られた時間ですが、大いに交流を深め、楽しんでいただければ幸いに存じます。

今年の目玉企画の一つは『深めよう、絆一函館⇄東京』というテーマでの大ビンゴ大会です！

函館にちなんだ景品を多数ご用意する予定ですので、大いに盛り上がりいただきたいと思います。

また、中部(CHUBU)の名を冠した「なつかしく、おいしい」企画も準備中ですので、そちらもどうぞお楽しみに。

最後になりましたが、昨年、今年と開催した新人歓迎会にご参加いただいた、125期、126期の皆様、同期や先輩をお誘いの上、是非ご来場ください。お待ちしております！

(幹事一同)



参加お申込みについて

- ① Web 申込(推奨) : 東京支部サイト <https://kanchu.tokyo/> から、またはページ右上のQRコードより専用フォームへ移動し、必要事項を入力後、送信してください。
- ② ハガキによる申込 : この会報と一緒にお届けした返信用ハガキ(郵送料不要)に必要な事項をご記入の上、ご返送ください。

どちらも10月12日(土)締め切りです。

受付担当 渡邊 event@kanchu.tokyo TEL 080-1117-5824 *お問合せ・緊急のご連絡もこちらにお願いいたします

《お願い》

- ・当日、受付にて年会費¥3,000を参加費と共に納入ください(大会当日までに納入されていない方のみ)。
- ・当日の飛び入り参加は、原則としてお受けすることはできません。必ずどちらかの方法でお申込みの上、ご来場ください。
- ・キャンセルについて : お申し込み後のキャンセルは、10月31日(金)正午までに下記までご連絡をお願いいたします。
- ・上記締切後、またはご連絡なしのキャンセルにつきましては、参加費相当のキャンセル料のお支払いをお願いする場合がございますことをご了承ください。

白楊ヶ丘同窓会東京支部
ウェブサイト
<https://kanchu.tokyo>



校正協力(87期)
池田智之・海老名徹・鹿毛正之
熊谷志麻・栗山ゆかり・小泉淳
櫻井直人・澤口亜樹・松本篤史
三十苺俊之・山科直樹・渡辺岳夫
2ページ写真
沖崎剛 第69期

編集後記
今年の会報は、例年の24ページから大幅に増量し、28ページでの発行となりました。
同期会の開催報告が例年より多く送られて来たことにより24ページでは収まりきれなくなった事が主な要因ですが、それ以外にもたくさんさんの情報が寄せられましたので、白川支部長の承認をいただき急遽28ページでの発行となった次第です。
送られて来た同期会の模様や、在校生の部活での活躍、また取材させていただいた先輩諸氏の活躍などを見るにつけ、長く苦しかった自粛生活の中でも皆さん着実に歩みを進めて来たのだなと編集作業を通じて、あらためて実感させていただきました。今年の正月は能登地震、羽田事故と悲しいニュースで幕を明けましたが、当たり前の日常を大事に過ごしていきたいと思っています。
(荒谷修司 87期)